

【目次】

- 「児童生徒支援シート」の活用で切れ目のない支援を！
- 東日本大震災から10年、防災対策や防災教育のさらなる充実を！

●「児童生徒支援シート」の活用で切れ目のない支援を！

「児童生徒支援シート」は支援が必要な児童生徒の状況を把握し、組織的・計画的に支援を行うことを目的として作成されています。

ケース会議では、SCやSSWの専門スタッフを含めた関係者が情報を共有し、複数の視点からより良い支援ができるよう「児童生徒支援シート」を活用し、状況確認や支援の役割分担を確認しましょう。教育支援センターや医療機関、児童相談所等の関係機関と連携する場合にも有効です。

また、「児童生徒支援シート」を活用し、学年間はもちろんのこと、小・中・高等学校の校種間においても切れ目のない情報の引き継ぎを行い、継続的で組織的な支援をお願いします。

※大分県版児童生徒支援シートはこちら (県教育センターHP)

➡ <https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/kyouikusoudan-guide.html>

(支援シートのExcelファイル、記入例)

●東日本大震災から10年、防災対策や防災教育のさらなる充実を！

2011年3月11日14時46分、東北地方を震源とするM9の「東日本大震災」が発生しました。この地震により東日本各地で震度5弱～7の強い揺れが観測されたほか、波高が10～40mという大津波が発生し、死者及び行方不明者は2万人以上に上りました。先日2月13日にも余震と考えられる最大震度6強の地震が起こっています。東日本大震災は学校の防災教育と防災対策の重要性が再認識されたきっかけとなりました。

防災教育の取組の成果として、震災前から教育活動全体を通じた系統的な防災教育を行っていた岩手県釜石市立釜石東中学校では、生徒自身が地震後の津波を予期し、率先避難したことで自分の身も周囲の人の身も守ったことが知られています。防災対策の重要性として、宮城県石巻市立大川小学校では、川を遡上した津波に飲み込まれ児童74人、教職員10人が犠牲となりました。学校の危機管理マニュアルの不備や教職員間の意見の不一致、ハザードマップでは津波の浸水想定区域外だったことなどから高台への避難が遅れたため犠牲になってしまったことが、その後の調査で明らかになっています。

これらの教訓から、学校全体で系統的な防災教育の実施や、学校の立地環境（地理的状況）を勘案した危機管理マニュアルの策定が大規模災害から児童生徒・教職員の命を守るために有効であることがわかります。

この機会に学校の防災教育の状況や危機管理マニュアルの内容を見直し、学校管理下で児童生徒の安全を守ることと合わせて、将来児童生徒が社会に出たときに、自分や大切な人を守ることができることを目指した防災教育の充実をお願いします。

---

◎メルマガに対するご意見や取り上げてほしいテーマは以下から投稿してください。

<https://www.egov-oita.pref.oita.jp/vdk9zKeA>

---

配信元：大分県教育庁学校安全・安心支援課 (URL：<http://www.pref.oita.jp/soshiki/31450/>)